

明日に向かって

翁島小学校六年 R.N

私は、あるニュースを見て恐怖を感じました。それは、いじめにあって自殺した中学生のニュースでした。クラスの人に無視されていると家族に話していたそうです。生きることより死ぬことを選んでしまったその人は、いったいどのような気持ちだったのでしょうか…。私自身、そのような体験をしたことはないのですが、「死ぬ」という恐怖は知っています。ひいおじいちゃんが亡くなった時の皮膚の感触。少し前まで感じていた温もりが無くなり、触るとはるかに冷たかった。命が無くなるとはこういうことなのだと感じた瞬間でした。そんな「死」を選んでしまうほど心が追い詰められていたのかと想像すると、とても怖くなりました。

ある統計によると、日本の自殺死亡率は先進国の中で六番目という高い割合にあるそうです。その中で、若い人の自殺死亡率は、事故によって亡くなる人の約3倍に上ると聞きました。若い世代の死因のトップです。自ら死を選んでしまう理由は様々ですが、十九歳以下では、いじめなどを含む学校での問題がほとんどとのことでした。

みんな始めは、きっと長く生きたいと願っているはずです。病気によって生きたくても生きられなかった人、戦争やテロなどで、強さを証明しようとする人達のために命をうばわれてしまった人、震災のような思わぬ災害によって明日を絶たれてしまった人…。運命によってさけられなかった死は、私たちの日常に存在しています。しかし、WHOによると、自殺だけは「さけることのできる死」なのだそうです。明日への希望をなくして死を選んでしまうことは、努力によって防ぐことができるということなのです。

私たちは、学校や社会などの集団からはずれてしまうことを恐れます。失敗したらどうしよう、嫌われたらどうしようというストレスを感じて生活することも多いように思います。でも、失敗しても大丈夫だよと声をかけてくれたら、笑顔で話を聞いてくれたら、辛い時にとなりで寄り添ってくれたら、死を選択することは遠ざかっていくのではないのでしょうか。自分が今ここに存在しているということが無駄ではないと気付けると思います。私自身、友達や家族や先生方からそうやって支えてもらっているから、毎日を笑顔で過ごすことができるのだと感じています。

また、私たちは、命を守り育てることもできます。私たちのクラスでは、メダカを育てています。みんな大切に育てているので、猪苗代の寒い冬を乗り越えて元気に生きています。そして今年は、新しい命がたくさんかえりました。5ミリにも満たない小さな子メダカが元気に泳ぎ回っています。これも、みんなが水の管理をしたり、エサをこまめに与えたりと努力して世話をしているからだと思います。思いやりを持って命を育てることができるのが人間なのです。

人も、動物も、植物も、生きているものはみんな必ず最期を迎えます。かけがえのない命は一つです。小さなメダカにも、大型の動物にも、私たち人間にも一つしかありません。そして、なくなった命は二度ともどりません。家族や大切な人を悲しませないように、そして私を産んでくれた母を悲しませないように、毎日を大事に生きることが大切だと思います。

命について考えることが多くなった私は、人の役に立つ生き方をしたいと思うようになりました。将来は医師になり、病を抱えている人の命を救い、その人の未来を創るお手伝いをしたいです。私も自分に与えられた命を自分自身で守り、笑顔で歩いていきたいです。

明日に向かって。